

ちいきの大学



2012
夏
04

Contents

- 愛知県内教育関係者懇談会 ● 四者協定連絡会
- 大学連携講座 ● 高校訪問授業 ● リソースルームから
- あいちの学校連携ネット ● インフォメーション

愛知教育大学は教育界をはじめ広く社会と連携し、社会からの要請に応じて、教育研究の成果を還元し、社会の発展に貢献します。



美術棟 西側



第一共通棟 中庭



ちいきの大学をめざして

地域連携センター長 都築 繁幸

愛知教育大学は、1970年に刈谷市井ヶ谷町に移転しました。井ヶ谷町を中心とする低丘陵地に古窯跡があり、井ヶ谷古窯群と呼ばれ、猿投山西麓古窯群の一つであり、77基が発見されています。井ヶ谷町の洲原池、大池、広沢池、牛池などの周辺に分布し、碧海台地より古くて一段高い挙母台地に広がっています。井ヶ谷古窯の最も古い時期の窯は8世紀後半で、9世紀前半頃に最盛期を迎え、9世紀後半から10世紀にかけて衰退していきましたが、井ヶ谷窯が、その後の三河国の窯業を支える存在になったとされています。大学内にも井ヶ谷古窯群の一つである「松根3号窯」があり、出土品の一部は、愛知教育大学附属図書館にも保管されています。

本学は、1873年に愛知県養成学校として設立され、2013年に「創基140年」を迎えます。地域連携センターは、これまで碧海5市を中心とした連携活動を展開してきましたが、これを契機に次の段階に発展していくことが求められています。

愛知県内教育関係者懇談会

5月23日(水)に愛知教育大学と愛知県内教育関係者による懇談会がKKRホテル名古屋で開催された。懇談会の目的は、本学と県内教育関係者との相互理解及び連携協力の一層の推進を図ることである。本学から松田学長をはじめ25名、県内教育関係者18名が参加した。松田学長から愛知教育大学の現状と課題について報告があった。

- ・本年度の国立大学と本学の予算の特徴
- ・学部改組の方向
- ・愛知教育大学将来構想
- ・第二期中期目標、中期計画期間（平成22～27年）
- ・昨年度の業務実績報告

続いて、3人の理事より次の内容が報告された。

折出理事より…教育実践研究科（教職大学院）
岩崎理事より…教育学研究科（大学院）・教育実習・教員免許状更新講習

都築理事より…共同大学院博士課程・キャリア支援センター・地域連携等

その後、教員養成、相互連携の在り方について多くの要望・意見が出された。



◆教育実習等について

教育実習を希望する学生を受け入れる現場は、多忙の中で指導している。意欲のある学生を送ってほしい。

教育実習に行く前の1・2年生への働きかけが重要である。教職への道などのキャリア支援セミナーの充実が必要である。

教育実習後に、ボランティアで学校行事等に参加する学生がおり、現場は大変助かっている。このような学生に大学として支援をしてほしい。

◆教員養成等について

卒業時に小学校と中学校などの2枚の教員免許状を取得していることを愛教大の特色としてほしい。

子育てや学費、現場との両立など難しい面が多いが、今後は大学院で学ぶ現職教員が増えてくる。

教員養成大学としての建学の精神・伝統・実績を大切にしていきたい。

◆附属学校園について

七つの附属学校園は、教育実習、研究発表、地域のモデル校として愛知の教育をリードしている。現在実施されている実践研究の成果が期待されている。

◆地域連携について

大学が連携している地域は、三河地域が多い。尾張地域への拡大も検討されたい。

学生が外国人児童生徒学習支援ボランティアで入っている学校では、大変効果が上がっている。

四者協定連絡会

四者協定は、平成21年11月6日に刈谷市において愛知教育大学長、刈谷市長、商工会議所会頭、刈谷駅前商店街理事長の四者が互いに連携を深め、市街地の活性化に努めることを合意したものである。第4回四者協定連絡会が本学で6月12日(火)に開催された。



刈谷市からまちづくり推進課長谷川主幹をはじめ3名、商工会議所から米倉総務課係長、刈谷駅前商店街から鈴木理事長をはじめ7名、本学から一宮特別学長補佐をはじめ8名が参加した。

刈谷駅前商店街にある「ふれあい交流広場」であるスペースAquaの活用、アクアモールイルミネーション、ほろ酔いカリアンナイト、カリアンゼミなどの事業により中心市街地の活性化を図るための意見交換が行われた。

昨年度のスペースAqua「イベント実施状況」で、本学の先生方・院生・学部生・OBが多数参加している報告があった。UNOセクションは11回開催され、スペースAquaへの来場者数は、1年間で1,707名であった。

本年度も5月からUNOセクションが開催されており、年10回予定されている。

連絡会での主な要望・意見は次のとおりである。

●UNOセクションの各回ごとの開催は少しずつ手順化され、来場者数も増加している。宣伝等にまだまだ工夫が必要である。

情報誌“あくあ”への掲載で、事前に3ヶ月分の情報をいただくようになったので、大学には負担が大きかったかもしれないが、参加者のリピーターがかなり増えている。

●学生と商店街・地域住民との交流については、まだ十分とはいえない。学生たちが主体的に参加できるようにしたい。教育実習以外の社会との交流の場としてとらえ、連携活動に協力を望む。

スペースAquaの行事企画を年間で学生に任せてはどうか。開催した企画・運営から効果測定・改善というプロセスを体験できる。ひいては駅前周辺の「まちをデザインする」まで広がると良い。

学生は大学の講義を第一に、余力のあるところで地域貢献している。組織化されたサークル活動の活用を図りたい。

●大学と刈谷市との交通手段について、現在の公共交通機関の利用では、料金・所要時間・本数において解決したい課題が多い。

今後も、協定の目的達成に向けて継続的に連絡会を開催することを確認して、閉会した。

大学連携講座

6月30日(土)午後に名古屋市生涯学習推進センターで、大学連携講座「親子で学ぼう！経済のしくみ」が開催された。講師は、本学の水野英雄准教授と東京証券取引所グループCSR推進部の町田貴子氏の二人で、参加者は15組の小学生の親子33名、祖母も参加した組もあった。

「私たちの暮らしと株式会社～シェア先生と学ぶ経済のしくみと会社の役割～」をテーマに株式会社のしくみについての一斉講義と、株式投資ゲーム「ブルサ」による体験型学習をグループで行った。

講義は小学生の児童が積極的に参加できるように工夫されており、クイズがあったり、質疑応答があったりと変化に富んだ講義であった。小学6年生の女子から、「景気が悪いと言われているけど、どういうことですか？」と鋭い質問も出された。

体験型学習の株式投資ゲームは、経済に関する様々なニュースに基づいて株取引を疑似体験することで、経済的なものの見方・考え方を養うように展開された。ゲーム教材による学習は、親子で相談しながら楽しむことができた。



受講者の声として、母親の受講動機は「身近でないテーマに小学生から触れさせることは意義あると感じたから」、男子小学生は「会社の創り方が分かったと良いなと思ったから」などが聞かれた。

受講後には、「大変楽しく、分かりやすかった」、「もっと時間をかけて行いたい」、「次はもっとうまく株取引をしたい」という声も聞かれた。

この講座は、2回構成で7月7日には全国銀行協会企画部広報室長の小倉康介氏による「銀行って何だろう？」というテーマで開催された。

教育大学である本学と、経済界（東京証券取引所グループ・全国銀行協会）、行政（名古屋市生涯学習推進センター）による産学官連携による講座として、また親子で学ぶことができる講座として、さらに充実・発展していくことが期待される。



高校訪問授業



高校訪問授業は、愛知教育大学が高大連携をより一層推進していくために、本学で実際に行われている講義等を高校生が身近に体験することを主眼に、本学の教員が高校に出向いて授業を行うものであり、高校生の大学に対する理解と進学意欲を高め、今後の学習意欲を喚起することも目的としている。

実施時期は毎年6月1日～11月30日の間で、受付期間は毎年4月1日～9月30日の間で、実施希望日の2ヶ月前までに愛知教育大学地域連携センター（TEL0566- 26-2129）に申し込むことになっている。高等学校から直接申し込みがあったものののみ受け付けている。

昨年度までは模擬授業として実施していたが、高校訪問授業として本年度からスタートした。

昨年度の模擬授業の実績は、次のとおりであった。

- ・高校数は49校で、愛知県内は43校、県外は6校。
（三重2、静岡2、岐阜1、富山1）
- ・授業参加高校生は、延べ2、914名。
- ・本学担当講師数は、延べ67名。

7月13日に名古屋市緑区にある名古屋市立緑高等学校（学級数25、生徒数994名）で高校訪問授業が実施された。本学から教員養成分野として、教職実践講座の添田久美子教授と、健康科学分野として、養護教育講座の山田浩平講師の2名が、それぞれ第1時限（2・3年生対象）と第2時限（1・2年生対象）の2授業を行った。参加生徒は合計118名、保護者2名も熱心にメモをとっていた。

二人の講師は、それぞれの分野で学ぶ楽しさや魅力をととても分かりやすく解説された。高校で特に勉強しておくとい科目や科目だけでなく、学ぶ目的、なぜ学ぶのか？など学問の本質についても触れられた。



リソースルームから

地域連携センター兼担教員

現代学芸課程日本語教育コース 准教授 **上田 崇仁**

リソースルームでは、外国人児童生徒にかかわりたいと考えている愛教大の学部生、大学院生にボランティア登録してもらい、受け入れを希望する小中学校に派遣するという仕事もしています。

単なるボランティア派遣ではなく、登録した学生を対象にしたガイダンスや指導案作成・教案作成の相談にもとり、年度途中は、勉強会も開催し、抱える問題の共有と具体的な解決方法について一緒に考える機会を作っています。

中教審が、平成24年5月に出した「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（審議のまとめ）」には、これからの社会と学校に期待される役割として、「外国人児童生徒への対応」が挙げられています。また、「外国人児童生徒への対応（中略）をはじめ学校現場における課題が高度化・複雑化しており、初任段階の教員がこれらの課題などに十分対応できず困難を抱えている」ことが指摘されています。

リソースルームでは、学生の時期から、学校現場に入って外国人児童生徒にかかわる仕事をお手伝いする経験を積み、座学で学んだことを実践を通じて、また、現場の先生方からの助言をいただきながら一つ一つ確認、実践していくことを支援しています。「学び続ける」ために、問題意識を持つことが必要です。

今年度、学生向けの勉強会は

- ①「外国人児童生徒支援 ー概論と個別支援ー」
- ②「日本語の初期指導」
- ③「教科(算数)につながる日本語の指導」
- ④「外国人児童生徒支援 ー概論と指導のヒントー」を予定しています。

また、地域の皆様向けの講演会は、11月3日(土)に講師をお招きして行う予定です。ホームページなどで詳細をお知らせいたしますので、ぜひ、多くの方々のご来場をお待ちしております。地域の皆様との連携も、この活動を持続可能な活動としていく大きな原動力になると信じています。



リソースルームにおける学生向けの勉強会

あいちの学校連携ネット

愛知県教育委員会が平成24年3月に開設したサイトで、愛知教育大学も参加している。

県内全ての49大学と、高等学校222校・特別支援学校34校・公立小中学校を所管する54の市町村教育委員会の情報を掲載し、双方の連携した取組の実施につなげていくことを目的としている。

◆大学からの掲載状況

大学が行う高校生や教職員向けの講座等を集約して掲載している。

本学が掲載されている情報は次の4件。

- ・高校向け出張講座 ・オープンキャンパス
- ・教員向け公開講座 ・教員免許更新講習

◆市町村教育委員会からの掲載状況

大学生のボランティア募集や大学教員との連携希望の情報などが掲載されている。

詳しい情報は下記ホームページ参照

<http://www.gakkourenkei.aichi-c.ed.jp/>

Information 1

愛知教育大学 保護者懇談会

昨年度から開始した保護者懇談会を、本年度も実施する。

▶期日：10月21日(日)

▶場所：愛知教育大学講堂ほか

愛知教育大学の今を伝えるとともに、保護者との意見交換・交流の機会とすることを目的として開催する。詳細な日程や内容は、保護者あてに、案内を発送するとともに、後日、大学HP等でも広報する予定。

Information 2

地域連携フォーラム

平成20年度より毎年開催。本年度は11月10日(土)に愛知教育大学で開催予定。

地域連携の在り方や連携の方向性について、学生・市民が協議できるよう準備を進めている。詳しい内容が決まり次第、広報する予定。

Information 3

2012年第6回スペシャルオリンピックス日本愛知夏期地区大会

▶期日：11月18日(日)

▶場所：トヨタスポーツセンター
(豊田市保見町井ノ向)

ボランティア大募集 愛教大はスペシャルオリンピックスを応援しています。

問合せ先：E-mail soaichi@sage.ocn.jp

URL <http://son-aichi.jp/>